



D3 2010 Retro Can-Am Regulations

2012年05月01日改訂版

D3 1/24 レトロ Can-Amレーシングクラスルール

1. クラスの主旨

このクラスの主旨は、新規及び熟練したレーサー及びビルダーにスケール感があり、コストのかからない、1960年代半ばのスロットカーレーシングの黄金時代の精神に基づいた、スクラッチビルトのスロットカーのクラスを提供することである。

2. サイズ規定

2a. シャーシ最大幅 3.125 インチ (79.375mm)

(ホイール外側を含んだ全てのシャーシの部分もこれを超えてはならない)

2b. リアタイヤ最大幅 0.810 インチ (20.574mm)

2c. リアタイヤ最小径 0.8125(13/16)インチ (20.6375mm)

2d. フロントタイヤ最小幅 0.225 インチ (5.715mm)

2e. フロントタイヤ最小径 0.750(3/4)インチ (19.05mm)

2f. シャーシ下面は、ホイールとガイドを除き、テストブロック上で平面でなければならない。

最低地上高 0.050 インチ (1.27mm) (リアアクスル下、ギア最下面より)

0.015 インチ(0.381mm) (シャーシ最下部、シャーシ最前部)

上記最低地上高は、平面の車検台(テックブロック)上で、4輪を接地させ、ガイド無し
の状態に計測するものとする。

サイドパンも同様の最低地下高を維持するものとする。(下方向に垂れたパンは禁止)

3. シャーシの構造

3a. シャーシ形式: 自作もしくは商業的に販売されているスクラッチビルトシャーシで以下の規定と第1条のクラスの主旨の精神に則したものに限定する。

ピローブロック構造(個別の金属板アクスルホルダーが、どんな形式であれ、金属板のカットされた溝に半田付けされたもの)は、絶対に禁止。

3b. シャーシの材料: 真鍮製の板、棒、パイプ、鉄製は、ピアノ線、パイプ、ガイドタンクに限り使用できるものとする。

折り曲げられた一体かつ三面のリアアクスルキャリアを含むモーターブラケットを必ず使用しなければならない。

モーターは、モーターブラケットに2本以上のネジで取り付けなければならない。
ガイドタング以外には、鉄製プレス部品及び、EDMカットもしくはレーザーカットされた如何なる金属製部品を使用してはならない。

- 3c. ドライヴ形式：インラインドライヴに限る。モーターのシャフトは上方から見てリアアクスルと90度の角度でなければならない。
- 3d. スイングアームを除き、あらゆるヒンジの可動方向は一方向に限る。
(即ち、サイドパン・ヒンジもしくはプランバーヒンジのどちらか一方に限り、同時に両方向の動きは禁止する。ヒンジをゆるくして一方向以上に動くようにしてはならない。) センターロールヒンジは禁止する。シャーシのあらゆる部分の可動の範囲は、ヒンジの動き、シャーシ自体のひねりを含めシャーシの最大幅3.125インチ(79.375mm)を超えてはならない。
- 3e. フロントアクスル：一本の円形断面で最小径0.0937(3/32)インチ(2.381mm)の一体型フロントアクスルに両前輪を取り付けなければならない。
アクスルはシャーシ本体に固定するかパイプに通すことができる。
L型アームの様にアクスルをヒンジで可動させてはならない。
フロントタイヤは個別に回転させてよい。
レースカーを横から見た時に、いかなる物もフロントタイヤとリアタイヤをさえぎってはならない。ピロブロック式のフロントアクスル取り付けは禁止。
- 3f. ガイド：シャーシの中心線に一つだけしか付けてはならない。
(オフセット、サイドウェイ、フリーフロートは禁止。)
- 3e. シャーシに自動的に液体を噴霧するいかなる装置も取り付けはならない。

4. モーター規定

- 4a. T S R D 3 スペックモーターに限る。キャンを開けたり、改造は禁止。
モーターはキャンにある2mmのねじ穴に2本のねじでモーターブラケットに取り付けなければならない。
モーター規定に明らかに違反した場合は、あらゆるD3競技から永久に追放されるものとする。

5. ボディー規定

- 5a. Ruskit, Mac, Lancer, Associated, Dynamic 等の1970年以前のCan-Am及びスポーツ/GTのオリジナルもしくは完全な複製でなければならない。
車高を低くし過ぎたり、空力的に改造したボディーは禁止。
実車もしくは、オリジナルの金型に無い成形されたスポイラーやウィング等は禁止。
ボディーに一体成形されたコックピットを持つボディーは、たとえコックピットを切り取ったとしても使用不可。
リアホイールアーチは、実車のホイールアーチが閉じている場合のみ切り取らなくてよい。
ボディーは美しく塗装され、両ボディーサイドに一つずつ、フロントに一つ、合計三つのレーシングナンバーを付けなければならない。
上方から見た時に、ボディー外に、いかなるシャーシの部分が見えてはならない。
ボディーの厚さは、最低0.010インチ(0.254mm)なければならない。

5b. スポイラー :

—材質 : 透明もしくは不透明なプラスチック

—最大サイズ(見える部分の) : 3.125 インチ X 0.5 インチ (79.375mm X 12.7mm)

—スポイラーの傾斜は自由

—見える部分は平面でなければならない。

—マウントされたボディーの路面からの最高の高さ (スポイラーを含まない) は 1 3/8 インチ (34.925mm) を越えてはならない。

5c. ボディーのノーズ (前の先端) 部分 :

ボディーの前端の垂直部分はエアインテーク部分を含めて切り取ることが出来るが、少なくとも 1/16 インチ (1.588mm) は残っていなければならない。

例外はボディー先端部の垂直部分を持たない Ti22 だが、いかなるメーカーによるこのボディーもメーカーの刻んだトリムラインを越えてノーズ部分を短く切り込んで서는ならない。

5d. サイドダム、フロントダイアプレーンは禁止。

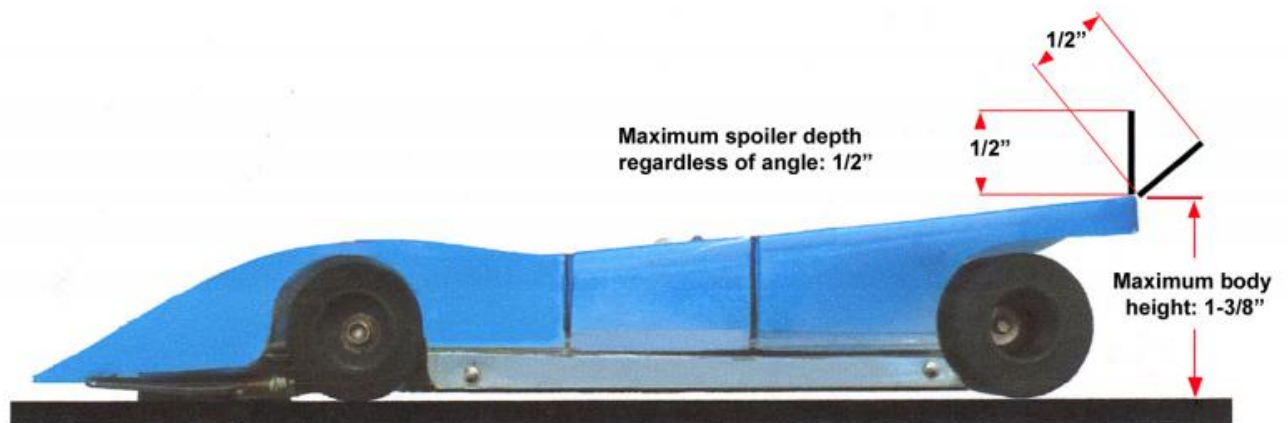
実車がハイウイングを付けている場合に限り、ハイウイングは可。

(たとえば Chaparral 2E/2G/2H)

5e. コックピット :

コックピットは、ウィンドスクリーンとボディーの自然なラインに沿って完全にオープンしていなければならない。

少なくとも 2 色に塗装された立体的で独立したドライバーが乗っていなければならない。



2012/05/01 改訂